

「はい、アライ商事でございます」

「もしもし、ウエダ製作所の小川と申します。いつもお世話になっております。恐れ入りますが、営業課長の安藤さんはいらっしゃいますか？」

「申し訳ありません。安藤はただ今、会議で席を外しております。あと一時間程で終わる予定となっておりますが」

「それでは、一時間位しましたらもう一度こちらからお電話いたします。安藤さんがお戻りになりましたら、来週火曜日の打ち合わせの件で電話があったとお伝え願えますか？」

「失礼ですが、お名前をもう一度お願いいたします」

「ウエダ製作所の小川と申します」

「ウエダ製作所の小川さんですね。私、井上と申します。安藤が戻りましたらウエダ製作所の小川さんから、来週火曜日の打ち合わせの件でお電話があったと申し伝えます」

「よろしくお願いします。失礼します」

井上は電話を切ると、明日の朝一番に提出しなければならない売上報告書の作成に取りかかった。しばらくすると、再び営業部の電話が鳴った。今度は後ろの席に座っていた奥田絵美が急いで受話器を取った。

「はい、アライ商事でございます・・・あ、こちらこそお世話になっております。はい、少々お待ちください」

奥田は電話を保留にすると、井上に取り次いだ。

「井上さん、ウエダ製作所の小川さんという方から一番にお電話です」

「お電話代わりました。井上です」

「もしもし、先程お電話いたしましたウエダ製作所の小川と申します。お忙しいところ度々申し訳ありません。先程の電話で、一時間後に安藤課長に電話をお入れすると申し上げましたが、急な用事が入りまして、これから大阪へ行くことになったんです。戻りは早くても明日の夕方になる予定ですので、誠に申し訳ありませんが、大阪から戻り次第こちらから改めてお電話させていただきます。安藤課長によりしくお伝えください」

「わかりました。申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

一時になると会議が終わわり、席を外していた安藤がデスクに戻った。

「課長、お疲れ様でした」

「ああ、ご苦労様。私に何か連絡は？」

「はい、一件ありました。ウエダ製作所の小川さんから来週火曜日の打ち合わせの件で電話がありました。今日、明日は緊急で大阪へ行くことになったので、戻り次第連絡することでした。課長によりしくお伝えくださいと言われました」

「そうか。ありがとう」

井上は伝達を終えて一息つくくと、後片づけをするために会議室へ向かった。